

大阪バイオ戦略2008の概要

※最新の動向、課題や到達等を踏まえ、毎年見直しを行う。

I. 目標を立てる (将来像のイメージ)

～メインターゲットを医薬品・医療機器とし、彩都バイオランドデザインが目標とした「10年後(2018年)に北大阪バイオクラスターを中核とした大阪を“世界第5位”に」を目指して～
*「彩都バイオランドデザイン」では7位、「三菱総合研究所調査」では13位

医薬品、医療機器を中心としたバイオクラスターの発展をめざし、クラスター内外における経済発展の好循環(バリューチェーン※)の厚みを増すよう、事業化案件が次々と創出される環境(治験迅速化、ベンチャー支援、規制緩和等)を整備。あわせて、大阪を中心に神戸や京都などとの連携を進め、関西地域全体の発展を担う「国際バイオ都市大阪」の実現を目指す。

これらの取組みにより、府民、ひいては国民の健康水準(QOL)の向上を実現する。

(※バリューチェーン: 研究シーズ→バイオベンチャーの創出→成長・発展→スピニングアウト等による新たなベンチャーの輩出→成長・発展・・・という地域経済発展サイクルの形成)

II. 強みを活かす

大阪の最大の強みである産学官の連携を一層強化するとともに、世界最高水準の研究が進む大学・研究機関、大手製薬企業、バイオベンチャー、ものづくり中小企業の集積を活かし、実績ある産業化事業の経験を基に世界をリードする先端医薬品、革新的医療機器等が次々に創出されるしくみを作る。

- ・世界トップクラスの大学等研究機関の集積を活かした革新的研究の推進
- ・製薬企業の集積を活かした先端医薬品開発の推進
- ・ものづくり中小企業の集積を活かした医療機器開発等、異業種参入の促進
- ・創薬・医療機器等の産業化に向けた先進的取組みを活かした更なる成功事例の創出
- ・産学官連携の強みを活かした事業の展開
- ・関西圏の広域的ポテンシャルを活かした情報発信力、国際連携の強化

III. 課題を解決する

新技術、創薬シーズ創出の担い手であるバイオベンチャーの起業を促進するとともに、成長の基盤となる投資の拡大、IPOの促進など、資金確保環境を改善する。

また、治験環境の整備、規制緩和(国への提案・要望)などにより、先進的な研究成果の産業化を加速する。

- ・バイオベンチャーの創出・育成の促進
- ・バイオベンチャーへの投資拡大、IPO(株式新規公開・上場)促進等に向けた取組みの推進
- ・治験・承認審査等の円滑化、迅速化
- ・治験ネットワークの構築

IV. 成長を促す

国内でのバイオ関連企業間の技術移転、共同研究、販売提携等のアライアンス構築に向けた支援を行うなど、企業間連携を推進する。

また、海外クラスターとの連携を促進し、海外をターゲットとした企業等の研究開発、治験、販路開拓等の進展のためマッチングの機会を創出するなど、海外企業との企業間連携を支援する。

- ・国内での企業間連携の促進
- ・グローバル展開を支援するための海外クラスターとの連携強化

V. 環境を整える

大阪における先進的研究や企業の新製品・新技術の開発、多様なバイオ振興事業等の立地魅力を明確に国内外に発信するため、ブランド力を高めて情報発信力を強める。

また、バイオベンチャー等が求める経営人材等の育成・確保支援や、成長したベンチャーやライフサイエンス系企業の新たな展開用地の拡充等インフラ整備等を推進する。

- ・情報発信(ブランド力)の強化
- ・人材の育成・確保
- ・インキュベーション施設等のインフラ整備
- ・彩都の立地企業受け皿エリア拡充

規制緩和、バイオベンチャー育成策(人材・資金)、治験ネットワークは分科会等を設置して別途検討

VI. 到達度を測る

■効果の把握手法 ・指標については毎年把握 ・10年目に将来像について検証、5年目に中間検証を実施

■到達度を測る指標

- ・アクションの達成指標: 治験の実施数及びスピード、ベンチャーキャピタルからの投資額、規制緩和数 研究開発に関する投資額 等
- ・クラスターとしての発展指標: 企業数、企業集積度、生産高、ベンチャー企業数、IPOベンチャー企業数、パイプライン数、研究者数 等 (2系列で評価を行う)